

(公開学習Ⅰ) 第2学年1組 図画工作科学習指導案

指導者 妻藤 純子

2年1組教室

1 題材名 みて かんじて お話しよう

2 授業構成

(1) 教師と教材

本題材は、学習指導要領の「鑑賞」の領域であるが、美術作品を鑑賞するという学習内容は低学年において、明確に位置づけられているわけではない。低学年の鑑賞は、身近な材料や友だちの作品について感じたことを話したり友だちの気持ちを聞いたりするという内容となっている。低学年の児童に美術作品の鑑賞という題材に取り組む理由として、自分の考えを持ちながらも多様なもののみ方や考え方があることを他者とのかかわりの中で気づくことができる一つの手段と考えるからである。美術鑑賞は一つのコミュニケーションツールであると捉え、自分の世界から他者との関係の広がりや深化が発達するこの時期に、想像力を働かせ楽しみながら自分と他者との相違点やそのよさに気づくことは児童の成長の一助となると考える。絵をみることに對してまだ構えがない分、直感的に感じたことを素直に伝えることができると期待している。

本時の学習では、絵には多様な「み方」があることに気づかせるために、ポール＝シニャック「法王宮風景」、アンリ＝ルソー「熱帯のジャングル」、ワシリー＝カンディンスキー「両義性、複雑・単純」の3点の絵を鑑賞する。選択理由として、自発的に絵を全体的にみたり部分的にみたりできるもの、技法的に特徴のあるもの、物語性のあるもの、作者の意図は当然あるもののみる側によってそのみえ方がいかようにでもできるものとしてこの3点を挙げた。絵には、技法的な特徴があること、物語(ドラマ)がみえること、色やかたちから様々なみえ方があることを体感させたいと考えた。3点の異質な絵をみて、その違いに気づくことで絵の多様な「み方」をつかませたい。

(2) 子どもと教師

鑑賞の学習で最も大切だと思うことは、自分の感じたことを素直に表現できるということである。心が解放され、想像力を働かせながら自分の思いを語ることは、多様な感性を引き出すとともに他者とのかかわりも生まれる。自分の感じたことがそのまま受け入れられるということは、美術ならではのコミュニケーションと言えるであろう。

図工の学習での美術作品の鑑賞は、制作活動と違い1題材数時間にわたって行っていない。制作活動において、表現のヒントにするための導入として取り入れたり、定期的に1単位時間で取り組んだりしている。自分や友だちの作品のよさに気づくなど身近な表現への鑑賞を基本に置きながら、題材の内容を考え、継続的にいろいろな美術作品を鑑賞することで、表現意欲を高め制作活動への刺激となるようにしていきたいと考えている。

本時までに児童は、ピカソ等の作品を鑑賞してきている。絵をみて自由に自分の感じたことを発表する中で児童は、ピカソ独特の表現方法があること、1つの絵から様々な情景が想像できること、絵には作者のメッセージや思いが込められていることに気づいている。児童の発言をまとめてみると、直感的にひらめいたこと、自分の経験を通して感じたこと、友だちの考えから自分の考えをふくらま

せたものなどがあった。自由に発言させることを基本に置きながらも、なぜそのように感じたのか、絵の中の造形的要素（例えば、色、かたち、描き方）を根拠にしながら発言することを大切にしている。本時は、技法・物語性・多様性について気づかせるのだが、感じたことの根拠を明らかにしながら、その子なりの言葉で語らせた。そして、友だちの感じたことや思ったことを聞きながら、自分との共通点や違いに気づき、そのよさやおもしろさを感じさせたい。絵をみて自由に語り合うことで他者とのかかわることの楽しさも味わわせたいと考えている。

（3）子どもと教材

3点の絵を1点ずつ順番にみてその特徴に気づくという活動は、ただ漫然とみせただけではこの時期の児童にとって容易なことではない。そこで、本時では、それぞれの絵の特徴に着目しやすくするため、虫眼鏡形をした「〇〇めがね」を使う。シニャックには、技法に着目できるよう「技めがね」で、ルッソーには、物語をイメージしやすくするため「お話めがね」で、カンディンスキーには、いろいろな感じた方をしてよいという「なんでもめがね」でみるようにする。この眼鏡を通して、みる活動の視点をもたせるとともに、何かをみつけないかという意欲を高めようというねらいがある。また、児童にとって1単位時間に3点の作品をみる場合、そのみせ方にも工夫をしたい。3点とも同じ姿勢でみるのではなくシニャックは、配布したプリントをみたり、前に提示した絵をみたりするなど移動しながらみるようにする。ルッソーは、プリント配布し友だちと話しながら物語を想像させたい。カンディンスキーは、前に提示した絵をみんなで見ることで、多くの感じたことを語り合わせたい。

提示する絵の順番としてまず始めに、どの児童もその特徴が容易にみつけれられるであろうシニャックの作品からみるようにする。この作品は点描という技法で描かれている。点描というとスーラが有名であるが、この作品は点の大きさが大きく児童にはその特徴が遠くからでもみつけやすいと考える。近づいたときと遠く離れてみたときのみえ方の違いも感じられるであろう。そこで、前に提示した絵だけでなく、プリントを配布し細かい点の様子や色の集まりがよく分かるようにする。次に、ルッソーの作品をみる。ルッソーの作品は、絵本の一場面であるかのような構図で、ルッソー自身も行ったことのないジャングルを想像して描いている。木々の間に動物がみえ隠れしていることも児童の想像力をかき立てると思われる。絵の部分を指し示しながら自分で考えたお話を語らせた。最後にカンディンスキーの作品をみる。児童の好みそうな色が使われいろいろなかたちで描かれている。抽象表現であるので、みる側によってその捉え方は様々であるから、同じ色やかたちでも人によってそのみえ方は大きく変わるということを話し合いの中で気づくことができる。色やかたちなど造形的要素を根拠にしながら、全体的にまたは部分的に想像したことを語らせた。一部分の色やかたちからの見立ての活動になり得るので、部分的にだけみている児童については、友だちの感じたことと融合させるなど作品全体をみられるようにしたい。自分のイメージをすぐにもてなくても話し合いを通して、友だちの考えに共感しながら自分のイメージへのヒントにすることができる。さまざまな考えが引き出せるよう、児童の発言を拾いながら児童のイメージを紡いでいきたい。

3 題材の目標

3枚の絵をみてそれぞれの表現の特徴の違いに気づき、感じたことや思ったことを話し合いながら楽しくみる。

4 学習計画（全1時間）

3枚の絵をみて感じたことや思ったことを話そう（本時）

5 本時の学習について

(1) 本時目標

- ・ 3枚の絵をみて、感じたことや思ったことを話し合いながら楽しくみる。
- ・ 絵には、いろいろな「み方」があることに気づく。

(2) 期待される児童の様相

①みること

- A 近づいたり離れたりするなどいろいろな視点でみる。
- B 他の絵と比べながらみる。
- C 友だちのつぶやきをヒントにしながらみる。

②話すこと

- A 3枚の絵からみつけたそれぞれの特徴について話す。
- B 理由をつけながら自分なりに感じたことや思ったことを話す。
- C 自分と友だちの感じたことを比較しながら話す。

(3) 本時の展開

教師の意図 (○)・全体への支援 (◇)・個への支援 (◆)

学習活動	教師の支援・意図
<p>1 本時までの学習を思い起こし、今日のめあてを確認する。</p> <p>2 3枚の絵をみて、感じたことや思ったことを話す。</p>	<p>○ピカソ等の作品をみてお話したことを想起させ、絵には作者の表現の工夫やメッセージがあることを再確認することで絵の多様な表現への意識づけを図りたい。</p> <p>○3枚の絵、シニャック、ルッソー、カンディンスキーを1点ずつ順番に提示する。技法等が全く異なる絵をみせることで、多様なもののみ方があることに気づかせる。</p>
<p>3つの絵のひみつをみつけて、感じたことをお話ししよう</p>	
<p>①ポール＝シニャック「法王宮風景」を「わざめがね」でみる。</p>	<p>◇虫眼鏡形の3つのめがね（技めがね・お話めがね・なんでもめがね）を使って、視点をもちながらみるができるようにする。また、ひみつを探ることへの意欲づけも図られ楽しく鑑賞できるものと期待している。</p> <p>◇各自に絵のコピーを配布するとともに、前に提示した絵を自由にみるができるようにする。</p> <p>○技めがねを通して、点（短い線）で描かれていることや点だけでなくさまざまな色が集まっていることに気づかせたい。</p> <p>○技めがねを持つことで、近づいたり離れたりしてみる</p>

	<p>ことができる考える。</p> <p>◆まず近づいてみるようにさせ、お話ししながら一緒にみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆をどんなふうにかしたのか。 ・どんな色が使ってるあるか。 <p>○自分の感じたことや思ったことを発表させ、点描と色、描かれている題材について語り合わせたい。</p>
<p>②アンリ＝ルッソー「熱帯のジャングル」を「お話めがね」でみる。</p>	<p>◇お話めがねを通して、絵をみせ、絵の中にはどんなお話がかくれているか想像させる。</p> <p>○1点目の絵との違い（描き方、色、場面など）を感じながらみせたい。</p> <p>◆絵には何が描かれているかをみつけるよう声をかける。</p> <p>○自分のことばで絵を指し示しながら、どんな部分に着目して、どんなことをイメージしたのかなど理由をつけながら想像したお話を語らせる。</p> <p>○友だちと自分との想像したものの相違点に気づくことで、多様なもののみ方があることを感じさせたい。</p>
<p>③ワシリー＝カンディンスキー「両義性、複雑・単純」を「なんでもめがね」でみる。</p>	<p>◇技めがねとお話めがねを合体させた「なんでもめがね」でみることで、様々な感じ方がより可能な抽象表現へ導くようにする。</p> <p>◇どんどん自分の思いが語られるよう、コピーやめがねを個別に配布することはせず、一斉にみるようにする。</p> <p>○色やかたち、構図などから自分の感じたことや想像したことを理由をつけながら語らせたい。</p> <p>◆友だちの発言を聞き、それをヒントに自分の想像をふくらませたい。</p>
<p>3 3つの絵の違いをみる。</p>	<p>○3点の絵を並べて提示し、「技法に特徴のあるもの」「物語性のあるもの」「いかようにも解釈でき、みる側によって大きくその感じ方が変わるもの」であることを確認しまとめる。</p>
<p>4 本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>○自分なりに感じたことや思ったこと、友だちから気づかされたことなどをワークシートにまとめる。</p> <p>○数名に発表させ、友だちとの相違点に気づくことで、それぞれのよさを感じ、みる楽しさを味わわせたい。</p>